

第5回「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会議事録

1 日 時 令和2年7月27日（月）10：00～11：30

2 場 所 福岡市役所 15階 1503会議室
（福岡市中央区天神1丁目8番1号）

3 出席者（敬称略）

・作業部会委員

| | 氏 名 | 役 職 等 |
|-----|---------|--------------------------|
| 部会長 | 小 出 秀 雄 | 西南学院大学 経済学部 教授 |
| | 平 由以子 | 特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事 |
| | 田 中 綾 子 | 福岡大学 工学部 教授 |
| | 久 留 百合子 | （株）ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー |
| | 松 藤 康 司 | 福岡大学 名誉教授 |

4 会議次第

1 開 会

2 議 事

（1）今後のスケジュールについて

（2）「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」テーマ・基本方針について

（3）「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」施策体系について

（4）分野横断的施策について

3 閉 会

5 議事録

議事（1）今後のスケジュールについて

【事務局】

（資料1について説明）

意見なし

議事（2）「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」テーマ・基本方針について

【事務局】

（資料2について説明）

【部会長】

ありがとうございます。赤字のところは修正したところですね。では、この資料2に関してご質問、ご意見ございましたらお願いします。

【委員】

前に比べるとなんか少しすっきりして分かりやすくなったと思います。ただ、最初のところの3つが、ちょっと文字が長いと思うので、例えば「みんなで作るとは」で、まず「福岡市に関わる全てのステークホルダーの参画を目指す」と書いて、その下にどういう団体があると、そういう感じの書き方のほうがいいんじゃないかなと。全体的に全てそうなんですけど。

最初につながっている助詞的なものというのは後ろに持ってきて、最初に何をするのかというところをばーっと大きく書いてもらって、というほうがいいんじゃないかなと思います。そこは文字が多いと、なかなかみんな読まないかなと思って。

【部会長】

用語説明的に短くきちつという感じですかね、それぞれに。

【委員】

そうです。一番上だったら、「福岡市の全てのステークホルダーの参画を目指す」と。その下に誰が、どういう人たち、訪れる人何々とかでもいいと思いますけれども書いていって。

【部会長】

「みんなで作る」のみんなとはみたいな。

【委員】

だから後ろのところを前に持ってきたほうがいいのかと思います。修飾語なところはキーワード的に入れていく。全体的に文章が長いかなと。方針のところもそうなんですけど、なんかすごく何々とものような、皆さんの意思が、多分みんないろんなご意見があって、それを全部修飾的に付けちゃっているので長くなってるかなという気がするんだけど、一文をできるだけ短くしていただいて、そのほうがいいのかと思います。2つに分けているので。

【部会長】

日頃からそういう文章を書かれているので、そういう習性をお持ちの皆さんだと思いますけど、そんな感じでよりわかりやすく。

【委員】

これも同じなんですけれども、例えば方針1の下のほうですね。これも何とかに向けて、1, 2, 3とかすると見やすいと思います。

これも前にいただいたのをちょっと見たら、ほとんど行政が中心だったので、前の時もちょっと指摘があったんですけど、やっぱり「やってください」という気持ちがあるものすごく行政のほうがあるから、「一緒にやるぞ」というスタンスにすると。全部が共働なんですね、本当は。だけど主体として、特に施策のところを「行政」としてしまったら、もう任せとっていいのかなとなりがちかなと。やっぱりそこをはっきりしたほうがいいかなと。

こっちの方針の4もそうなんですけど、行政ばかりでしょう。

【委員】

方針3のところなんですけれども、市民・事業者、これは促進するためのシステムとかそういうのを提供とか情報、何かそんなものが、行政が関わっているのがあるほうがいいのかかと、何もないので思い切って1つぐらいは。だからそういう支援とか、なんかいろいろあると思うんですけど。

【部会長】

食品ロスの削減のあれは何でしたっけ。やってますよね、加盟店の。

【委員】

そういったところのマッチングをやったりとかされてますよね。そういうのをちょっと入れていただいたほうが。

【委員】

何かキャンペーンみたいなのがありましたね。

【事務局】

「もったいない！食べ残しをなくそう福岡エコ運動」ですね。

【委員】

一番最初のテーマなんですけど、これはすごくいいんですけども長いんですよ。だから書き方で、「みんなで作る」を例えば少し上に持ってきて、「活力ある未来へつなぐ」は2

行、それか3行にするとか、そういうあれにしないと、ちょっとこの1行は長いんですね、テーマの割には。だから見せ方ですけれども、何かちょっと工夫が要るかなと思います。

それから方針1の「単身者や高齢者世帯の多様な市民ニーズに対応した資源循環」は、市民ニーズですかね。ちょっとなんか違うかなと思います。市民ニーズってどんなのかな、私もちょっと言葉が浮かばなくて、何かニーズではないなと思うんですけれども。どちらかと言うと、それぞれの暮らしだとかライフスタイルと言うか、そういうことになるかと。

【委員】

ライフスタイルのほうがいいんじゃないですか。

【委員】

ライフスタイルですよ。ライフスタイルに対応した資源循環の推進のほうが。ニーズっていうのはちょっと違うと思います。

さっきの方針3のところは、私もやっぱり行政がちょっと積極的に何かやる、支援するとか、やっぱり行政が企業と連携したりとか、そういうことって結構あると思うので、何か表現はあるなという気がいたします。

【委員】

例えば後程の議事にあるんですけど、市民ファンドとか、ああいう若干の起爆剤になるような対応をしてますよね。これは福岡の特徴なので、そういうこともここ入れたら、行政の役割とか。せつかくもう15年近くやってる施策で、効果はそんなにぱっと大きくないけれども、そういうのをやめずに財政の厳しい中でずっとやっているというのは意味があるから。

【事務局】

資料3の2枚目のほうは、団体となってしまうんですけど、この方針3の「ESG投資の普及・促進」の中には、事業系ファンドの活用みたいなどころがあるんですね。そういう支援は今もやってますが、続けていくということなので、ちょっと表現を変えてみたいと思います。

【部会長】

ありがとうございます。テーマのリズムはなかなか難しいですね。先ほど言われたように。

【委員】

ちょっと長いんですね、見た目が。

【事務局】

少し見せ方を工夫しながら相談させていただければと思います。

【委員】

例えばキーワードでなんかでも、「やるぞ、何とかエコ活動」というような、ちょっと俳句みたいな感じで。そうすると例えば「みんなでつくる」というところで1回切って、ハイフンみたいのを入れて、そして「活力ある未来へつなぐ何とか」と言ったら、1回切れますよね。みんなでやるぞというのを、明文で出す。やるぞと思うように。

だから以前研究会をやった時も「参加しませんか」という言い方をしたら、新聞社の方が、それは「参加しよう」にしないと、ちょっと主体がどうぞ来てくださいという感じだから、「参加しよう」で1回切ってしたほうが覚えやすいということがあった。

【委員】

「みんなでやるぞ」というキーワードで、「活力ある未来へつなぐ循環のまち・ふくおか」。「みんなでつくる」では、ちょっと弱いんですね、当たり前みたいな感じで。

【委員】

そういう時代じゃないかなと。必死にならないと、何となくちょっと大変かなと。ここのところを2つのフレーズにして作り替えたらなど。

以前は「参加しよう」だったね。「参加しよう」という、やっぱり主体的に。ちょっとそのほうが読みやすいかもしれない。

【部会長】

ありがとうございます。

それでは次にまいりましょう。資料3です。議事の3の「福岡市一般廃棄物処理基本計画の施策体系について」、事務局から説明をお願いいたします。

議事（3）「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」施策体系について

【事務局】

（資料3について説明）

【部会長】

ありがとうございます。こっちの参考配布のほうは、何か追加説明はいいですか。非常に細かい内容ですけど。

【事務局】

なかなか施策の方向性の中で表現できないというか、具体的な施策を一覧のほうに載せていまして、これを1つ1つ議論するというはこの場ではしづらいのかなとは思っています。

ただ、その中から今後、原案を作成するに当たって、例えばプラスチックのリサイクルルートの検討なんていうのは、資源化に移行する部分が市の処理施設のごみ処理量には減量という効果になりますので、そういったものについては原案を作る中で少し議論をしていただくことになるかなと思いますし、あとのそれぞれの細かい施策については、むしろ作業部会で原案を作った後の循環部会で、適宜ご議論していただくような形になるのかなと認識しています。

【委員】

さっきちょっと言ったことですが、重点3品目の例ということではありますけれども、そのところが例えば全部が全部ではもちろんないというのはあると思うんですけども、例えばアウトカム、要するにこれぐらいの目標、ある程度数値的なものが設定される予定ですか。

【事務局】

バイオプラスチックの普及促進というところで言うと、現在は地域清掃活動への配布ぐらいにとどまっているんですけど、実際にまだ目標数字を入れる状況じゃないみたいですけど、どのぐらい普及させるみたいなのは、目標数値としてできれば盛り込みたい。じゃないと、何か漠然としている中でやるのはなかなか達成感もないです。

【委員】

だからある程度できるものは数値を。結構大変ではあると思うんですけども、やっぱり数値目標にしたら、例えば1年後にチェックを入れてどう推進しているかというのができるし。

それともう1つは、例えば市民啓発みたいなこととか、市民と一緒に共働りする時にも、アンケートという形にするのかどうなのか、そういう例えばグリーン購入とか何かがどれぐらい進んでるのか、これは事業者のあれですけど、ただ例えばエコ商品購入とか、それからリサイクルしている商品、そういうアンケートみたいなものというのは、そこ独自じゃなくて市民アンケートみたいな形の中で取られるんですか。

【事務局】

市民アンケートで取れる分もあるかとは思いますが、今回、昨年度事業者と市民に対して大掛かりなアンケート調査もしていますので、それは定期的に今後も進めていきたい

とは考えてます。独自のアンケートもやっていきたいと思います。

【委員】

それだと、アウトカムになるかどうかあれですけど、やっぱり成果というか、どういうふうに市民の計画が進んでいるかどうかというところなんかは、やっぱりやっていかないと、何となくよく行政がされてあるセミナー講演会を何回開きました、参加人数何人ですというのがアウトカムで、それは違うでしょといつも言うんですけど。

本当に実質的な、難しいけれども成果を考えていくとか、時系列に見ていくということが大事だと思うんですね。

【委員】

方針1の真ん中の「交流人口をターゲットにした3Rの推進」というのがあります。ここは駅とかかなり具体的に書いてますが、その下の単身者向け施策というのは漠然としている。だからターゲットからすると、一応、福岡の特徴から、このところは来訪者に向けた施策とか、具体的には、駅とか空港とか宿泊等に対して具体的にどのようにするか、そのほうが意味合いが出る。

一番最初のところに「福岡市を訪れる人々が」という文章がありますね。それからするとこのところこももう少し言い換えをすれば、「来訪者、福岡を訪れる人に向けた施策」として、具体的には駅とか空港とか、そういうほうがバランス的にはいいかなと。

【部会長】

ありがとうございます。

方針1の下のところ「外国人居住者向けの施策」ってあって、細かい資料では10言語対応のキーワードが書いていて、これは個人的に面白いなと思って。

東京の例えば新宿辺りをぶらぶら歩くと、ごみ捨て場とかに結構原語で書いてあるんです。タイ語とかインドネシア語とかも書いてあるんですけど、多分そういうイメージなのかなと思うんですけど。アセアン向けとかそんな感じですか、この場合だと。

【事務局】

東南アジア系の居住者が福岡市の場合が多いんですけども、そこにターゲットをもっていこうとは思っています。

【委員】

レインボープラザとか、ああいう所で、そういう環境施策に関するパンフレットとか置いてるんですか。居住する人たちは区役所が配るでしょ。観光に来た人たち、駅に降りた人たちが最初に訪問する所にそういう環境施策がないような気がするので、そういうのがここ

の中で必要かなと。

【事務局】

居住者とインバウンドで来るお客さんですよ。

【委員】

まさに交流人口です。そこをちょっと何か、福岡の場合はまさにかなり重要かなと思うんです。

【部会長】

今は基本的に、英語と中国語とハングルなんですか。

【事務局】

基本的にはそうです。今後必要に応じて増やしていきたいと考えています。

【委員】

川端町とかそれから新天町とか、ああいったところの商店街とか、私はちょっと商店街の施設跡のコーナーやる時とか、そっちのほうだけでは、いつもじゃないですけどパンフレットを作られたり提供しますが、大体お店の紹介なんです。だけどそういうものと組んで、ごみの処理だとか、例えば「リサイクル品を買いましょう」じゃないけど、そんなふうな啓発みたいなことっていうのは、商店街と組むと結構できるんじゃないか。商店街も何かやろうと思っているので。どこでもは当たらないのしょうけれども、ある程度大きな、川端とか結構外国の方とかいらっしゃいますので。

だからあの辺の商業施設とか大きなところと組んでやるっていうのもあるかなと思います。

【部会長】

モデル的な感じで。

【委員】

ここの書き方なんですけれども、資料3なんですけれども、重点品目と上との関連というのが非常に分かりづらいんですけれども。この考え方の基準の中に重点品目を、これとこれとかいうことっていうのは、プラスチックであったりわざと出しているのは何なのかなと思ったりするんです。

【事務局】

これをこの上に上げたらどうかという意味ですか。

【委員】

いえ、それぞればらして、どこに重点品目を一応これとこれっていう感じで。今は何か二重になる感じがするんです。だからそっちのほうが非常にいいかと。

【部会長】

古紙、プラスチックごみ、食品廃棄物みたいなのを大きく3つ置いて、それがこう関係しますみたいな、そういうほうがいいのかもわからない。

【事務局】

今回、この重点3品目で特に力を入れたい事業、当然取り組まなくてはいけない事業ですので、特出ししたようなイメージです。どうしても重複するところがあるんですけども、特出ししたようなイメージでそこに出したんですけど、むしろそれより中に入れたほうがいいですか。

【委員】

中に入れて、重点の品目はこれですとか入れたほうが、いいのかなと思いました。次の回でもいいので。なぜそう言ってるかという、資料3の方針4のところの古紙の施策がないってところが、中に入れ込んだほうが消せるかなと。ターゲットにしているのはほとんど海洋プラスチックなので、古紙の施策がないのは仕方がないが、「何もやらないの？」という感じになるよりはいいのかなと。

【委員】

前も言ったように、グリーン購入というのは、ここに参加されている人はみんな知っているけれども、これも全市対象にした時にまだ定着しませんよね。だからグリーン購入とは、もう10年以上20年近くなっているんだけど、そういうものへの配慮が足りない。

【委員】

事業者のグリーン購入とか、県でちょっとやっているんですね。そういうあれが進んできているけど、一般市民はその意識はないと思う。

【委員】

だから、ちょっと用語の説明を入れてやったほうがいいかなと思います。

【委員】

マークを入れるとか。ああいうのは結構みんな見ていると思うんです、マーク自体は。エコマークみたいなのは。

【委員】

子どもから大人まで見てくれるようにとなると、ちょっと文章が。

【委員】

ちょっと質問いいですか。この前の新聞情報だったと思うんですけど、プラスチックを国として回収しようという情報が出ていました。

その点、福岡市の今後の考え方について聞いておきたいなと思って、福岡はどちらかという燃やしていますよね。だからその辺をどんなふうに今後考えられるのか。まだこれから決まっていくんでしょうけれども、私も燃やせるんだったら、燃やしてほうがいいかなという気もするんです、発電したりとかもあるし。でも国がどういうふうな方針を出してくるかということがあろうし、その辺は少し議論になっていますか。

【事務局】

私も新聞報道でしか読んでないんですけど、今、容器包装プラスチックを分別収集するように、容器包装以外の製品プラスチックについても容器包装プラスチックと一括して回収して、資源化するという方向性のお話です。

なぜそういうことをしたいかという、1つは市民の方に分かりづらいせいです。容器包装プラスチックって、そもそもどれが対象なのか分からないので、自治体がそれを導入しても回収率があまり上がらない。

政令市で見たところ、回収率は良いところで6割、悪いところは3割ぐらいです。導入してもそれぐらいしか容器包装プラスチックの回収はできないというところがまず1点あるんです。それを分かりやすくすることで一括回収するということです。それから、現在は、分別収集したものを自治体で選別して、選別したものを容器包装リサイクル協会に渡しているんですけど、選別する手間を省いていきなり処理施設に持って行けるというシステムをつくりたいというのが、新聞報道で上がっていた内容だったと思います。

ただ、気になっているのは、容器包装プラスチックの場合は容器包装リサイクル法に基づいて製造者と小売業者から負担金をもらって、その負担金によって政府のリサイクルの資金に、全額じゃないでしょうけれども、その資金にしているという流れになっている。

今度、製品プラスチックを入れることによって、その枠組みをどうするか。そもそも容器包装プラスチックの枠組みをどうするか。さらに製品プラスチックの中で、事業者側の負担額をどうするかはまだ議論されていないので、制度設計がまだ全然できてないところではあると思うんです。その制度設計を見て判断をすることになるかと思っています。

ただ、自治体側というか、福岡市側から考えているものは、プラスチック問題は2つぐらい論点があって、1つは処理形態から外れるものが大きい問題になっている。海洋プラスチックであったり、それが環境にとどまることによって大きい問題があるというのが1つ。

もう1つは、もともと石油製品ですので、石油の資源の有効利用ということでプラスチックもできるだけ減らしたほうがいいというのは、1つ論点としてあるのかなと。私はその2つなのかなと思っています。

海洋プラスチックの問題だけで言えば、適正に処理をしていますというのを確保できれば、それ自体はそれほど大きい問題ではない。それが焼却なのか資源化なのかというのは、あまり議論すべき論点ではないというふうに考えています。ただ、適正にどうやって処理をしていくか、なので発生抑制みたいなものは大事だろうと思います。発生抑制を徹底的に進めていくというのは大事で、それによって流出することを防ぐことができますので、リスクを減らせる。

もう1つエネルギーの問題で言うと、これは前から言っていると思いますが、分別収集して資源化するエネルギーと、焼却して発電に寄与しているエネルギー。それが要は環境負荷が下がるのであれば、分別収集して資源化するという流れは必要だというふうに思っています。それが全体として、環境負荷がむしろ上がる、CO₂排出量が上がりますよみたいな結論であれば、何のためにやるのかみたいなのが私としてはちょっと理解ができないので、そこをもう少し突き詰めた上での議論はしたいので、一括回収であろうが、容器包装プラスチックであろうが、そこが解決されないことには分別収集して資源化する意味が私はあまりないと思っているので、そこを何か整理したいなというふうに思っています。

【委員】

福岡市は大体そういう今までのやり方で、ほかのところの10分別、20分別と言ってあるところの、そうじゃないいろんな効率とか都市の特性みたいなこととかいろんな議論をされた上で、焼却というものを選択されているということですよ。

【委員】

一時期、容器包装分別は、EUもかなりしていたけど、やはりドイツなんかでも実際調べると、サーマルリサイクルしたほうがいいんじゃないかという方向にシフトして、頓挫しているわけです。

ただ温暖化から考えると、とにかく全体的には世界でそういう負荷を減らしていかないと、災害が増えている状態です。それに対して日本はきちっと方針を必ずしも出していなかったし、今、環境省の話の聞くとまだはっきり方針を定めかねている。ただ何かメッセージを出しとかなないとということで、今回、レジ袋が有料化したというのがちょっとある。

だけど、アフリカとかあっちのほうはいきなり使用禁止なんです。それぐらいドラスティックに日本が今回出来ればいいけど、ちょっとどうかなと。

ただ、確かに今回レジ袋有料化にしてマイバッグを持っていく人たちは、増えている。

【委員】

ぜひそういうプラスチックについて、市民に対してどういうメッセージを出していくかというところをしないと、ちゃんと福岡市はやっていないみたいにすぐ言われちゃうんです。私たちはかかわってるから知っているけれども、一般市民にその辺を、時代の流れというか、伝えていく情報というか、こういうものと同時にしていかないといけないかなと思います。

【委員】

やはり物に対する考え方をちょっと明確に出した方がいいのだろうなと思います。今ファッションが環境負荷が大きいということで、エシカルファッションというのがたくさん出ているんですけど、でも今ある洋服を使ったほうがいいというのが一番じゃないですか、本当は。

結局、ファッション業界が今のままでは食べていけないから、食のほうに流れてきているんです。だからそういった意味でも、プラスチックの考え方は何を優先したほうがいいのかを考えているというのを出すのは、結構カッコいいかなと思います。

【部会長】

ありがとうございます。それぞれの施策とその内訳と1行ずつすごくすっきりして、あとは見せ方の問題ではありますが、非常にいいと思いますが、2R ビジネスとか分かってもらえますか。3Rは分かるけど、2Rってというのは、何って感じが。

【委員】

言葉の説明を入れていないと、全市向けにするとちょっと厳しいかなと。

【部会長】 このシェアリングエコノミーみたいな形で説明を入れていただければと思います。

【委員】

もう1点いいですか。資料3の方針1なんですけど、「単身者や高齢世帯等の多様な市民ニーズに対応した資源循環の推進」ですが、ほかのところというのは具体的な文言、何をするのかというのは書かれてますが、ここだけ、長い割にはキーワードになるものがない。

なので、どちらかと言えば単身者は、リサイクル、3Rはやられていないですよ。だからそういったところをちょっと入れるとかしたほうがいいんじゃないかか思います。高齢者向けは、ごみを出せる環境とか。

【委員】

身の回りの整理をいろいろとしないといけないでしょうから。福岡の場合はよその政令指定都市に比べると高齢者率はちょっと低いんですけども、ただ確実に上がってきてますから。

【委員】

だからちょっと入れたほうがいいかなという気がしました。

【部会長】

単身者と言った場合、一人暮らしの学生みたいなのも入るんですか。

【事務局】

入ります。

【委員】

交流人口にすると、春先の転勤、あれが結構大きいです。大体4~6万ぐらい入れ替わるのかな、毎年。ということは、ちょっとした1つの自治体が毎年変わっているから、啓発・普及が難しいです。ごみの出し方から。

【委員】

方針3のところなんですけど、食品ロスだけなので、生ごみのリサイクルコンポスト化というのは入っていたほうがいいと思っていて、食品ロスのほうが響きやすいんでしょうけど、私のほうで今年1月から新しいコンポストを出したんですけど、半年で5000人以上の方が参加されて、9割が初心者でコンポストをしたことがない方なんです。

その方々にヒアリングをすると、生ごみを捨てることに、減らしているんだけど捨てることにめちゃくちゃ罪悪感を感じていて、それでおしゃれで手軽そうだからと始めた方がほとんどなんです。

やっぱり生ごみという言葉に関しては、若い方、20~30代がメインなんですけど、すごく関心があるということもちょっと分かってほしいんです。なので、基本的に生ごみという言葉が入ったほうがいいなというふうに思っています。

【事務局】

方針3は、食品ロスにというところがあるんですけど、方針2の「多様なコミュニティによる都市と自然が調和した資源循環の確立」のところで、食品廃棄物の資源化のことも触れようと思っていますので、ここに少し事例を入れますか。

【委員】

そうですね。

【部会長】

NPO 等による資源循環の推進のところですね。

【事務局】

はい。

【部会長】

それをキーワードに入れる。よろしいですか、こんな感じで。

そしたら次に移らせていただきまして、議事 4 の「分野横断型施策について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

議事（4）分野横断的施策について

【事務局】

（資料 4 について説明）

【部会長】

ありがとうございます。ここは分野横断型ということでファンドの整理というか、そもそもあるファンドの位置づけについて、今回出てきていますけど、何かご意見ご質問があったらどうぞ。

【委員】

貴重な財源という言葉がいっぱい出てくるんですが、この数字は毎年変動があると思うんですけど、どれぐらいの予算なのか。よく今回のコロナの対策でも 1 兆円やるとか何とか大きい話をするんだけど、そういう形で税金をこれぐらい使っているというのを、問題がなければ出したほうがいいかなと思います。漠然としていて財源と言われても、どれぐらいの財源をやったか全く分からないので、数値にすると結構分かるんじゃないかと思います。

【事務局】

実績的には大体 7 億から、多い時で 9 億ぐらいです。

【委員】

それはほとんど、どちらかと言えばソフト、市民ファンドはソフトだからね。ソフトの支援に対して7億~9億というのは大きいと思うんです他都市に比べれば。それが福岡の1つの特徴だし、それも家庭ごみ有料制を導入した時にファンドに入れるということで決めてもらったわけですから、それは大きいと思います。

【事務局】

ただ、誤解がないように、今ここに挙げさせていただいているのはごみの分野です。環境市民ファンドは、ごみだけじゃなくて地球温暖化とかいろんなものにトータルとして使わせていただいているということです、自然環境も含めて。なので、財源としてはあるんですけど、ごみの計画の中でどう見せるかというところがあります。

【委員】

前におっしゃったように全体で7億~9億ぐらいの中で、ずっとこの10年、15年やっていますというのは説得力があります。

【事務局】

少しその辺りのご意見もいただいていますので、こういう方向性とか過去の経緯とか、少し今回の改定に合わせて書かせていただきたいと思います。

【委員】

特に僕が思っているのは、環境局のスタッフそのものが理解を十分していないといけな
いので、ここは今回の見直しの時に徹底しておいたほうがいいと思います。

【部会長】

できたのが15年前ですか。

【事務局】

そうです。

【部会長】

その前から袋はありましたよね。袋はあったけど、値段が統一されていなかった。

【事務局】

黒い袋から、取りあえず赤・黄・青の、有料化ではないけれども指定袋を作って、家庭ご
みが有料化になる時に今の袋が変わって、調達も市がするようになったという形です。

【委員】

そしたらこれを結局見直しなり整理したりして、新たなものを加えていこうということでしょうか。

【事務局】

そうです。環境市民ファンドについては、当然これまでやってきて定着している、例えば地域集団回収とかいろんなインセンティブとして定着しているものは引き続き続けながら、今回先ほどの議論の中にもあった新しい施策をやっていくためにもお金は要りますので、そのための財源として、これまでやって来て効果がなくなっているのは少し縮小するなり、やり方を変えて減らしながら、新しいものに入れる。そういう意味で、選択と集中みたいな形の言い方をさせていただいています。

【委員】

地域集団回収も私なんか助かるというか、持って行ってもらえるからあれだけでも、すごいやっている人が大変みたいなんです、する方が少なくなってきて。そして出る量が、前に比べたら少なくなっている気がします。前は新聞とか結構いっぱいあったんだけど。

【委員】

新聞そのものがどんどん減っているんです、読む世帯が。

【部会長】

ダンボールがすごいですよね。

【委員】

通販で出てきますよね。

【委員】

拠点回収に持って行っている人が多いということではないんですか。新聞はあれだけど、古紙とか。

【事務局】

この4月、5月は地域集団回収の量は減っているんです。要は皆さん集まっていたのがコロナでできないんです。その分、リサイクルステーションに持って行かれて、その量は増えているようです。

【委員】

回覧板が昨日回って来ていたけど、古布を出してはいけませんと書いてあったから、どうしようかなと思って。そうしたら燃えるごみで出しちゃいますね。

【委員】

集まってもマーケットが流れないから。結局、コロナでどこも規制をかけたんです。この1カ月から2カ月、全面的に古着は。海外で取っていたのが全部運べないから、もう置き場がないということで悲鳴を上げたんです。

【事務局】

倉庫がもう満杯で、とにかく置き場所がないんで。

【委員】

当面の間ということですか。

【事務局】

そうです。原則はやってます。

【委員】

船が動き出せばいいと思うんですね。

【部会長】

さっきリサイクルステーションの話がありましたけど、ぼんぼんに入っている時があつて、私は昨日の日曜日にうちの近くへ新聞を持って行ったんですけど、まず戸が開かない状態で。何とか入れたんですけど、今朝、地下鉄に乗りに行ったら、外にいっぱいダンボールが、雨の中で野ざらしになってて、本当にダンボールはひどいなと。

【事務局】

そうですね。ダンボールの量も半端ではなくて。

【委員】

拠点回収の担当の方がかなり高齢化しているので、市民の方がきれいに入れればいけど、ぼんぼん放り投げているから崩れちゃってて。あれ、結構、重労働ですよ。暑い中だからご苦労だなど思いながら。

【部会長】

無人のところは本当にひどいことになっています。

【委員】

もちろん市民の協力をとか協働というのは大事なことなんだけど、でも現実問題として、これから高齢化が進んで、変わっていくも踏まえた上でのやり方というか、それをちょっと今回見直してみてもいいかなと思います。

【委員】

そう思います。高齢化しちゃっているんで、特に拠点回収。そこにいる人が担当じゃないですか。だから仕事をされていない方とか高齢の方とかやられている感じがする。

【部会長】

ああいうのを若者を雇ったらどうなんですか。ある程度いいバイトのような気がしますけれども。

【委員】

ある程度出ているんですよね、お金。

【事務局】

出ています。

【委員】

そして高齢者になると、うちの母はもう亡くなっているんですけど、最後は出しきれませんでした。家の前までならごみと一緒に出すけれども、そこから集団回収のところまで持って行けないというので、私が1回持って行ったことがありました。

【委員】

だからそういうところが、高齢者の施策の中に入ってきたら、ここの中に活用できる。

【委員】

ある程度そういう財政的支援もできないことはない。普通は財政当局にお願いしないといけないけど、これはもともとこっちの主導型のファンドだから。

【事務局】

さっき言った重点3品目の施策で言うと例えば古紙では、今ダンボールが増えていると

というのは、高齢者政策にもつながるわけなんです。だから、そこで今回重点でやるのであれば、そこについてファンドで手厚くやろうとか、その辺は今後考えていきたいと思っています。

【委員】

今回、一応5年間ぐらいを1つの目標にしていますよね。コロナの影響は2~3年は影響しますから、ちょうどそれを、当面のフェーズ1の重点施策というもので、やってもいいと思うんです。メリハリを付けるためにも。

【事務局】

そうですね。高齢者施策と銘打つか、もしくはコロナの新しい生活様式に対応したみたいな。

【委員】

with コロナのごみ減量です。

【部会長】

若者を雇用したほうがいいですね。うちの学生に聞いてみると、やっぱり居酒屋とかコンビニが多いんです。それもいいんだけど、例えば環境の授業を聞いて、いろいろ意欲が高まる学生っているんです。いろいろ自分でもやっていきたいと。

でも、そういう場がなかなかないので、例えばそういう拠点回収の整理員みたいなやつだったら、特に金額が高くななくても、ちょっとやってみようかなとなるかもしれないです。

【委員】

地域発展につながるかもしれないですね。

【部会長】

数人でいいと思いますけど。

【委員】

そのつなぐところが要るんですね。

【委員】

アンダー30 向けの施策で支援するから、フリーマーケットに連携させるとか、何かそういうアイデアが出ればいいなと思います。

【委員】

私たちも実は今、天神の屋上で畑と苗木を作る人を増やしていたら、そこで働きたいという子が増えたので、グリーンジョブ事務局を立ち上げようという形になっていて、お金が少なくても引きこもりの子とかも都会の緑で働きたいという子が多いから、そういった意味では多分回収のやつもするんじゃないかなと。

ただ、その仕事をいかにおしゃれにするかがツボなんです。ユニフォームをカッコよくするとか、相談しながらですけど。

【委員】

それには古着からするとか、こういう博多織の古着を使ってどうのこうのとか、前にやってみました。

【委員】

ニューヨークとかでは、NGOにお金を出しているんですけど、どこも同じユニフォームを着ていて、背中にかっこいいメッセージが書いてあるんです。そういうふうに福岡市もなったらいいですね。

【部会長】

古着が好きな男子って、意外と多いんですよ。うちの学生も一昨日、対面授業というのを1回だけできて、1年生20人。男子が半分ぐらいで、その中で「僕、古着が好きなので、好きな人は一緒に買いに行きましょう」とか言ってた。2人、3人いるんですね。

【部会長】

とりあえず、資料4に関しては確認というか、こういうことをやってますの整理ということで。

【委員】

これもちょっと文章は変えて。箇条書きか何かで、もう少しコンパクトに読みやすいように。

【部会長】

じゃあ何か言い忘れたことがあれば、一応これで全てということになります。

【委員】

最終的にこれが冊子とかなった時に、皆さんが読んでくれないといけないわけです。その時にもう少し全体のレイアウトを考えたりして、見てくれるようなものにしてほしい。

【部会長】

現計画は、これが全てだったのかな。何か副読本とか。

【事務局】

あとは要約版が。

【委員】

絵があると、ぱっと見やすかったりとかするし、SDGs も絵が入っているように、一目で分かるようになっているけど。だから強調したいところなんかはちょっと絵を入れるとか。

【委員】

前の計画の時も専門学校にお願いして、絵を入れて。あの時は動物シリーズでサイとかゾウとか、「減らすゾウ」とか、全部で10ぐらい。

【部会長】

直接関係ないですけど、子ども用の教材みたいなのは何かないですか。福岡県の食品ロスだと紙芝居を作りましたというのが、確か2年前にありましたけど。

【事務局】

小学生向けの「ごみとわたしたち」、「わたしたちのまちの環境」という副読本があるんです。ただそれは学校で使う用なので、今環境的には脱炭素ですね、少し地球温暖化の話をするということで、ちょっと子ども向けのというか、一般の方が見て分かりやすいものを作ろうというのを今やっています。

【部会長】

あと、小学生もあれだけど、大学生。授業して、こんなん初めて聞きましたとか、そんなのばかりですもんね。毎日が驚きの連続みたいな。物を知らなすぎるよって感じですけど、でもそれが普通なのかと思いますよね。

【事務局】

小学生向けのさっきの副読本から、次に中学と高校、大人ぐらいが分かりやすいものが、本当は欲しいんですよ。ちょっとそこをターゲットにしたものを何か作ろうとは思っています。

【部会長】

災害支援に関することについて教えてください。

【事務局】

今、福岡市の方で支援しているのは、大牟田市の災害廃棄物処理の支援と、先週まで大牟田市の収集運搬の支援を行っておいりましたので、収集運搬支援は（公財）ふくおか環境財団の方から車両等を出していただいて、支援を行っています。

あとは、今進めているのは人吉市の災害廃棄物処理の支援と、球磨村に対してまだ人を派遣して、マネジメント支援という形で、日曜日から人を派遣してフォローしております。

【部会長】

3人ですか。

【事務局】

そうです。

【委員】

今のところは、福岡市は応援のほうだけれども、いつなるとき応援してもらわないといけない事態になる可能性も否定できないですね。福岡市もいつ惨事に直面するかもしれないと考えると、災害時における計画もちょっと入れとったほうがいいかなと思います。

【部会長】

では、進行を事務局にお返しします。

【事務局】

これで第5回第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画策定作業部会を終了いたします。次回はオブザーバーからの意見聴取ということで、コロナの影響もあって会議体の方法をまたこうやって集まることができない可能性もあるので、それも含めて通知をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。